

91
10
39

準貴

寶曆十三年身五月

公義
破
仰
上
十七

明和四年身

寶曆十二年正月

拾三番

公義部
仰上

慶應義塾
藏書印

義部

四丁亥年

明和七年
通年
表
書
指

宝曆三年六月朔日

御用表松年右系去更板白山田書居成り

秘者公節島波系之福年之流記儀秘之儀

抄名 沖陽右 沖安右 汝蒙 作作付

在通河去物系山流次之義者如

殿様山右系言之然儀右通沖流記等以之

作書以用入事申

信年之是後秘之儀私名系言之秘之

分凡... 仁... 法... 對... 島... 若... 氣... 台... 社... 上... 仁... 氣...
... 統... 不... 上... 前... 織... 九... 廿... 尺... 某... 何... 公...

心上

八月節日

沖石

己卯月廿五日

今收 沖隱居 沖隱居... 法... 補... 法... 仲... 書...
... 德... 山... 風... 氣... 在... 於... 松... 皮... 平... 古... 於... 松... 法... 留... 在...
... 梅... 白... 家... 古... 於... 柳... 系... 在... 古...

洋紙 首頁

一上風補

柳系經氣

評教... 字... 百... 拾... 七... 評... 三... 合... 七... 句... 好...
但... 知... 始... 大...

一下風補

善輪

評教八子百評

但... 言... 字... 知... 始... 大... 評... 教... 八... 子... 百... 評...

宗... 對... 島... 寫... 法... 氣... 大... 一... 世... 法... 氣... 以... 不... 可... 風... 補... 可... 垂...
... 風... 補... 抱... 風... 氣... 小... 事... 於... 法... 氣... 大... 中... 之... 者... 矣... 風... 補...

可也者之沙度公以辰也中六也

九月廿三日

宗新島白
梅白家古馬

壬午二月十日

即十二日增上吉

即靈前白

即玉清之氣

即海系白

即子辰六也

即靈

不立成也勤以付之
以在去大也自付舟
以幾也然以也而也其也

即十二日

即靈前

即玉清之氣
即海系白
即子辰六也
即靈

二月十日

即靈前

壬午
九月廿三日

任史也洋席合也信也
也之也後任史也
也之也後任史也
也之也後任史也

想の富貴のたにあはれ有るは常徳に持て居る人
其美の象徴なり申すは入道なりと云ふ
申すはあはれし書なりと云ふは入道なりと云ふ
了及道なりと云ふは入道なり

清令八方を治すは 仁徳の道に由りてなり
天下を治すは 仁徳の道に由りてなり
仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
有るは 仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
乃今仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて

右の如くは 仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて

仁徳の道

仁徳の道

對馬の如くは 仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
おれは 仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて
仁徳の道に由りて 仁徳の道に由りて

此宜以付 鄉行 出口 應 標 行 境 而 如 無 家
此 在 鄉 行 境 也 十 長 一 不 以 其 此 下 之
為 付 今 日 此 境 大 小 會 也 其 後 智 古 同 人 口 口
抄 系 中 也 必 受 明 之 每 人 之 或 合 者 必 必
之 詳 之 以 文 及 之 以 向 每 每 必 必 必 必

對馬國一圓

水米國

基肄郡一圓

貳拾貳圓村

高九千百貳拾貳石二斗半

卷受郡一圓

指葉村

宿付 牛車付 卷受村 荒上付 高柳村
有 寄 付 在 牛 車 付 今 宿 付 志 本 村 高 柳 村

高 四 千 貳 拾 石 二 斗 半

此 合 志 子 二 斗 半 寄 寄 七 斗 半

右 今 度 之 形 之 形 材 之 性 也 以 及

上 國 所 結 成 下

河 判 也 此 卷 受 人

在 以 依 以 以 付 執 達 也

寶曆十一年十一月廿五日

戶田宗忠

氏英利

松平初家守

宗佑利

宗對馬守殿

右方寶曆十一年十一月廿五日
長沙後山原知
月原子書知下也沙原山

宗一

松平宗忠

寶曆十一年十一月廿五日

願知高過

對馬國

一圓

肥前國

基難郡一馬貳拾貳箇村

宮浦村

城戸村

小倉村

野口村

長北村

一 古古百之拾五石九斗二升

一 古古百九拾貳石貳斗四升

一 古古百拾壹石四斗貳升

一 古古百石八斗二升

一 古古百拾石二斗二升

一 言武百九拾武若廿五并
一 言武百之若八并一并
一 言三百九拾七若廿五并
一 言百七拾九若七并一并
一 言武百石武并一并
一 言七百拾九若四并一并
一 言武百八拾九若二并五并
一 言武百三拾七若二并一并
一 言百武若七并四并

永長回村
永吉村
批比村
金九村
岩根村
神尾村
菅子村
古賀村
河内村

一 言武百武拾七若八并一并
一 言百九拾若四并一并
一 言百之拾七若五并一并
一 言百零拾武武并一并
一 言武百八拾若九并一并
一 言千八拾若八并一
一 言百九拾之若九并一并
一 言千者之拾若七并一并
一 言九千百武拾武若二并一并

田代村
横海村
坂子村
原村
飯田村
酒井村
山尾村
苗部村

田圃

卷支那之内指園村

- 一 高二百九拾石七斗半
- 一 高二百拾石八斗半
- 一 高二百九拾石七斗半
- 一 高二百三拾石八斗
- 一 高二百零拾石四斗半
- 一 高二百拾石二拾八石五斗九升
- 一 高二百七拾石四斗半

宿付

牛車村

卷支村

荒上村

多田村

友木村

仇生村

一 高二百拾石四斗

今泉村

一 高二百拾石四斗

志木村

一 高二百拾石九斗半

高田村

高田千武若八拾石二斗半

高田高亭子二千零拾石七斗半

郡部合二部
村較合二部

右足村高过右邊是沙原以上

寶曆十一年正月十二日

宗對馬守

松平初泉守殿

戸田宗如殿

外北平國基群之門改出

- 一 高百九拾九石七斗一升一合
- 一 高百九拾九石五斗一升一合
- 一 高百九拾九石三斗一升一合
- 一 高百九拾九石一斗一升一合
- 一 高百九拾八石九斗一升一合
- 一 高百九拾八石七斗一升一合
- 一 高百九拾八石五斗一升一合
- 一 高百九拾八石三斗一升一合
- 一 高百九拾八石一斗一升一合

- 高浦村
- 小金村
- 野口村
- 長橋村
- 高家田村
- 永吉村
- 杜比村
- 高家灣村

二

- 一 高百九拾九石五斗一升一合
- 一 高百九拾九石三斗一升一合
- 一 高百九拾九石一斗一升一合
- 一 高百九拾八石九斗一升一合
- 一 高百九拾八石七斗一升一合
- 一 高百九拾八石五斗一升一合
- 一 高百九拾八石三斗一升一合
- 一 高百九拾八石一斗一升一合
- 一 高百九拾七石九斗一升一合
- 一 高百九拾七石七斗一升一合
- 一 高百九拾七石五斗一升一合
- 一 高百九拾七石三斗一升一合
- 一 高百九拾七石一斗一升一合
- 一 高百九拾六石九斗一升一合
- 一 高百九拾六石七斗一升一合
- 一 高百九拾六石五斗一升一合
- 一 高百九拾六石三斗一升一合
- 一 高百九拾六石一斗一升一合
- 一 高百九拾五石九斗一升一合
- 一 高百九拾五石七斗一升一合
- 一 高百九拾五石五斗一升一合
- 一 高百九拾五石三斗一升一合
- 一 高百九拾五石一斗一升一合
- 一 高百九拾四石九斗一升一合
- 一 高百九拾四石七斗一升一合
- 一 高百九拾四石五斗一升一合
- 一 高百九拾四石三斗一升一合
- 一 高百九拾四石一斗一升一合
- 一 高百九拾三石九斗一升一合
- 一 高百九拾三石七斗一升一合
- 一 高百九拾三石五斗一升一合
- 一 高百九拾三石三斗一升一合
- 一 高百九拾三石一斗一升一合
- 一 高百九拾二石九斗一升一合
- 一 高百九拾二石七斗一升一合
- 一 高百九拾二石五斗一升一合
- 一 高百九拾二石三斗一升一合
- 一 高百九拾二石一斗一升一合
- 一 高百九拾一石九斗一升一合
- 一 高百九拾一石七斗一升一合
- 一 高百九拾一石五斗一升一合
- 一 高百九拾一石三斗一升一合
- 一 高百九拾一石一斗一升一合
- 一 高百九拾石九斗一升一合
- 一 高百九拾石七斗一升一合
- 一 高百九拾石五斗一升一合
- 一 高百九拾石三斗一升一合
- 一 高百九拾石一斗一升一合

- 神島村
- 菅子村
- 古賀村
- 河内村
- 田代村
- 横濱村
- 坂方村
- 平村
- 飯田村

一 高九拾石中一斗其春
 一 高九拾七石中一斗其春
 合式十八百七拾石二斗其春
 同國養父那之因改出
 一 高百五拾二石九斗其春八合
 一 高百拾石九斗其春四合
 一 高百九拾石五斗一斗其春
 一 高百零拾石五斗一斗其春
 一 高百零拾石五斗一斗其春

酒井村
 水尾村
新川村

宿村
 牛系村
 養父村
 荒上村
 高柳村

一 高百九拾石五斗一斗其春
 一 高百拾石五斗一斗其春
 一 高百零拾石五斗一斗其春
 一 高百零拾石五斗一斗其春
 合十二百七拾石二斗其春

友木村
 似生村
 今泉村
 高田村

初合高百一拾石五斗一斗其春

是より貞享元年一沙改良書書各

右之通延享二年一沙改良書上中心
 一沙改良書書各

正月十六日

松平和泉守殿

戸田宗右少殿

右方寶曆十一年正月迄各郷村帳字
書角一色迄有度公望

宗對馬守

宗一白

寶曆十二年正月十日

搦手冬島

所部定所

右料紙大巻法紙法高巻指為下印
有之上色紙紙目録と云々付帳と可代紙入
紙帳紙之上書在通

紙帳紙と申すは古抄の法有

對馬國

府中郷村帳

一冊

肥前國

同然目録字

一冊

宗對馬守

人数之世... 宗... 改...

對馬正上縣郡

一人教女子二百三拾三人

此高平年六月八日
改七歲以上

内 武子百七拾八人男
武子七拾七人女

同正上縣郡

一人教八百四拾八人

此高平年

内 甲千八百四拾七人男
甲千九拾八人女

肥前正上縣郡

一人教七百八拾八人

此高平年

内 甲千九百七人男
三千八百五十八人女

同正上縣郡

一人教武子七百六拾八人

此高平年

内 千石高尾八人男
女石持或人 女

人数合式万四千二百或人

内 妻子之子或高尾八人男
妻子之子或石持或人 女

沖東印地寺社殿高尾

右 對馬國上縣郡下縣郡肥前志蘇
郡高尾八人男
書向之也法有以上

宝曆十一年壬午十一月廿九日

高尾八人男
梅造高尾

沖東印地寺

一切支丹宗門徒者之公解息令以相改作
先年被依出作沙法度事之執海所
以取中上之可之也近近高尾八人男
之之也之也示改令紙之也之也不害或者

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

宗廟三十二年正月五日

仲一持系部

肥前國之口依分基難長又五部
換毛之完

一田島吉方、百羅七名、中九外等名

口田字九千七名、九羅七名、中九外等名

田島字千七羅七名、中九外等名

有之無為、長秋、早、魁、風、西、混、水、白、換、毛

法心之

十月七日

御名

癸未二月廿二日

權并改爲不主氣部

御名

古志之去、大、只、改、中、口、依、改、分、口、字、五、部、有
口、田、島、字、九、千、七、名、九、羅、七、名、中、九、外、等、名
可、以、年、行、依、田、字、九、千、七、名、九、羅、七、名、中、九、外、等、名

家對馬之御名

權并改爲不主

生對馬

御名

南太三羅部

古者之去非日然用之可也乃公之
子也何能之也世不其有也若以後
為之也其也何能之也其也何能之也
也何能之也其也何能之也

古一也

古一也

癸未二月十日

今收 若君採濟源生後胡鄭國古
也若知濟源書并別書古通古德古
松平古京古史松古古古

今收

若君採濟源 濟源生後胡鄭國
也若知濟源書并別書古通古德古

古一也

十二月

宋景

元文二丁巳年八月十五日在安中營大帳
設酒席設書於帳中

實永十八年

嚴有院採沖澁生之益之彩部官信度
來德之事求好大以度
行忠採沖澁生之益之 沖獨孫梅之舉
此項之信使來德之友及之方之部之相好
彩解由古之書款

八月

參東字解

退休未判使多由當為功也之為歸收
區區之志乃之方之友之誠之友之必之必
之成之古之門之為之之簡書之海井之為之欣
物之東之之也

一筆致政皆上作去年同姓或初之補
隱居私之家智之也 地之山後朝鮮國
頃武初大補以使者之其之如後禮曹

忝列廷官，政事未修，德之為寡，見
於上之，惟恐後時云

正月十三日

酒井左衛門尉柳
松平右近將監柳
秋元但馬守柳
井上河内守柳
松平右京大夫柳

對馬州太守拾遺平 義蕃 奉書

朝鮮國禮曹叅判大人 問下

律中林鐘緬惟

貴國協和

本邦同軌，慰澆共深，茲告不佞，外遭恙蟲肆害，額櫛

俱廢者，累年不克兢兢奉職，是以乞退休於

東武辱賜

公許，而遂挂冠之願，况嗣子義暢謹奉

嚴旨以纘司職父子

恩榮情傾鰲戴自今以往益篤相好之情誼永祈舊
之不替茲差正官平如敏都船主平元春佈此意
仍將薄具聊效遠敬統惟

崇亮肅此不備

寶曆十二年壬午六月 日

對馬州太守拾遺平

義蕃

別幅

赤銅累伍盥盤貳部

水晶笠緒貳結

彩畫八寸匳鏡貳面

貼金小屏風貳雙

大和真朱肆介

彩畫衣桁壹脚

紋紙壹千片

彩畫書架壹脚

計

寶曆十二年壬午六月 日

對馬州太守拾遺平

義蕃

朝鮮國禮曹參判金

時默

奉復

23

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

緬奉

華絨仍領

嘉貺慰荷交并曾賴

左右之厚誼果敦舊好即承令胤之克紹又申前盟

兩邦交睦可期勿替况

安車就閒付託無憂豈但

一州之盛事實深敬并隣之欣賀茲將菲品聊表謝悃統希

崇亮不備

壬午年八月日

禮曹參判金

時默

別幅

人參貳劬

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席參張

四張付油芘參部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

壬午年八月日

禮曹參判金

時默

卷末九月十二日

松年奉命領兵討賊
之躬乃年書有山圖者
西此九洲松年圖為松
梅白首為松年圖為松
松年奉命領兵討賊
松年奉命領兵討賊
松年奉命領兵討賊

三月廿六日

又言
實錄

三月十日

三月十二日

三月十日

三月十二日

實錄

三月十日

三月十日

京對馬

漢名

日武部補

望

三月十二日

梅白富

此書之右中... 望... 三月十二日... 梅白富... 京對馬... 漢名... 日武部補... 望... 三月十二日... 梅白富... 京對馬... 漢名... 日武部補...

未七月八日

以留与后极白富志乃其書付一色下以每定瑞日
物系平以御之委清法八部及下可及也

先在白言 汝後以洞心之汝對馬書所右

對馬國并紀名之月基肆書又西歌九

是之之如稼瑞不并第之如洞之之如時

浦心之如如陽新亦長古耳之書所書也

七月八日

極白富志乃

未八月十日

一昨九分皇伏之方有乃之也其言之如德

以留与后極白富志乃其書付一色下以每定瑞日

物系平以御之委清法八部及下可及也

對馬書所右 汝後以洞心之汝對馬書所右

先在白言 汝後以洞心之汝對馬書所右

是之之如稼瑞不并第之如洞之之如時

浦心之如如陽新亦長古耳之書所書也

八月十日

極白富志乃

未九月

宗對馬島
宗對馬島
宗對馬島

宗對馬島

宗對馬島

西定寺

石

九月

宗對馬島

宗對馬島

未九月十八日

宗對馬島
宗對馬島
宗對馬島

宗對馬島

宗對馬島

九月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日

十月廿九日

十月廿九日

十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

十月廿九日
十月廿九日
十月廿九日

三代新對馬島新尾樓白布每山
享保十六、亥年——六月十二日嫡子女

伯止同女二日初白

御目見仁友服之時良白右之吟味
石水本平初尾樓和之進例子氣
子之山付世辰中上之

九月廿日

子田佐丸

未十月十五日

告諸系判使小評曲胎功國之各留進條
云若之山付吏之政支度山留者由田作
山用者松平右進將監撰白抄系若出不

一筆致啓上作同姓武部大捕隠者私
家督云 山付殊不相替朝辭濟用
遂 山辰被國口以使志申遣山
從禮曹系判進條後而來作依之
為山披見若之山忌懼流云

八月廿五日

酒井九島門尉柳
松平右近將監柳
秋元但馬守柳
松平右京大支柳

日本國對馬州太守拾遺平

義暢

31

奉書

朝鮮國禮曹參判大人 閣下

即宸秋涼伏惟

貴國寧安仰邇無疆

本邦無為勿馳杳想不倂

但夏辱蒙

恩命承襲前封特俾通信之職一依先規望外之洪庇自

慙謏劣唯庶

兩國交誼不背先契益悖永好之誠幸垂

盛眷則感佩曷既仍差正官源如長都船主藤直中以陳

此事不腆，亦宜聊表微悃，祇乞
寬留，勿拒更新。
海涵肅此不備。

寶曆十二年壬午八月 日

對馬州太守拾遺平

義暢

別幅

貼金小屏風貳雙

水晶笠緒參結

彩畫衣桁壹脚

革裏大簿匣壹備

彩畫累合硯匣貳備

彩畫壹尺匣鏡壹面

青金火爐貳圍

計

寶曆十二年壬午八月 日

對馬州太守拾遺平

義暢

朝鮮國禮曹參判金

時默

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公

華緘遠辱備語

龍衣位世爵載績

芳緒事聳瞻聆寔切欣賀况承益敦永好之

示充可見

篤守隣誼懋念

先契之義此實

兩國之幸也

惠乃珍貺深感

盛眷謹將簿儀庸表回敬統以布

宗亮不備

壬午年十一月 日

禮曹叅判金

時默

別幅

人參貳劬

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

白綿紬拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席參張

四張付油笔参部

黄毛笔参拾柄

真墨参拾笏

際

壬午年十一月 日

禮曹参判金

時默

未
十月十六日

小田陸兵衛右衛門末次左衛門辰州の兼内中
 比何との旨の御書指し代り候田友等より
 比届書町以有り候所誠意申上候所御書
 掛合取付候所候御書指合付候所御書
 比以汲汲田舎名御書掛合付候所御書
 御書比御書付合所中候御書御書御書
 御書御書御書御書御書御書御書御書
 御書御書御書御書御書御書御書御書
 御書御書御書御書御書御書御書御書
 御書御書御書御書御書御書御書御書

宗對馬中家來

尚陸吉右兵衛

仁吉

右の去十二日就月事町に有るおのふり高の
及途取はのち之志以後尚陸吉右兵衛に
新量り九の付付候に由申上候に

十月十六日

宗對馬
濱田友吉

右の如候に申上候に

宝曆十二年十月十六日

一宗對馬中家來

仁吉之中我指候に申上候に
波久麻呂以來申上候に
申上候に申上候に

申上候に

十月十八日

沖國同代系大坂宗の改出候に
申上候に申上候に
申上候に申上候に
申上候に申上候に

以目行少如海法裁判下抗死書致無所現
切支丹以改稱担市好古依而小志摩古依
以好古依子皆後國友古書抄至先記以是
河津長交古古及海以抄由古古古
一切支丹宗門後前古古解急古古古古古
先古古被以古古古古古古古古古古古古
以中古古古古古古古古古古古古古古古
下古古古古古古古古古古古古古古古古
因姓武部之捕家來古古古古古古古古古古

疑交者云法度公事

一古切支丹下款族之者古古古古古古古古古古

古古古古古古

一以中古古古古古古古古古古古古古古古古

同姓武部大捕家來古古古古古古古古古古古古

不審成古古古古古古古古古古古古古古古古

以上

寶曆十二年十月十九日

宗對馬古古古古古古古古古古古古古古古古

福垣市好古古古古古古古古古古古古古古古古

一紙

正子志摩書
正子志摩書
稻垣市録書

一紙

未十二月十五日

右之河筆門三 正子志摩書
以有書和年右道右字様 抄示少及活抄書
肥後國之内領分 基肆養文取
換色

覽

一 田島字言拾七石斗七升或合

内田字字七拾五石九斗五升

日島字言八拾五石斗或升或合

右之南初夏早暖多 秋正風雨

洪水之換色法公世辰河田中上公以上

十二月十五日

正子

39 29

寶曆十一年甲申

二月

在羊年正月有... 留無... 其合...

美君... 河... 既... 乃...

... 又... 後...

... 又... 後...

... 後...

... 後...

... 後...

... 後...

... 後...

... 後...

二月

... 後...

同年三月十日

... 後...

... 後...

... 後...

此後... 府... 日... 交... 取

私... 今... 及... 元... 之... 故... 下... 涉... 海... 難... 有... 甚... 矣

此... 子... 之... 涉... 府... 官... 私... 儀... 若... 不... 應... 之... 故

涉... 府... 之... 為... 事... 中... 上... 公... 也... 實... 地... 事... 武... 武... 武... 備

實... 子... 氏... 江... 兵... 庫... 南... 由... 申... 十... 九... 歲... 既... 滿... 者

中... 書... 子... 之... 涉... 府... 武... 之... 下... 一... 年... 後... 事... 難... 矣... 矣

系... 府... 之... 涉... 府... 武... 之... 下... 一... 年... 後... 事... 難... 矣... 矣

室曆十四甲申年

三月十日

涉右 涉判
涉判

酒井左衛門尉殿

松平右近將監殿

秋元退馬守殿

松平右系守殿

松平月守守殿

甲申三月十七日

涉金涉好信也預書之即方如自有此用
掛松平右近將世宗柳山先生每來持金松
平山先生乃涉紙面在記

但大能美學之涉及人指方山尚意中一
人馬記海記之

信使發駕以來每夫抄續川之海水松子
相國既富皇川書德押流高之應款洋商之
子如松水川落治書書松涉書德記

為急山教之... 水能之多少... 自介之... 仕合... 津... 津... 津...

河分之... 以上

三月十七日

津名 津西判

- 酒井左衛門尉殿
松平右衛門尉殿
秋元但馬守殿
松平右京左殿
松平周防守殿

料紙... 申切...

甲申十月廿五日

一 部内田代書及坂高川改目原江村和達之介
信之通印布書之通河内改判紙に德字川改
本阿字福垣出給之件と申すに宋志摩原
之部右之部、之部七等抄本に之部右之部
之部右之部、之部七等抄本に之部右之部
之部右之部、之部七等抄本に之部右之部

一 切支丹家之被給之件、今之被給、作
給之件、
之部右之部、之部七等抄本に之部右之部

44

一 酒中在之件、
一 右切支丹之被給、有者、川跡、
一 右切支丹之被給、有者、川跡、
一 右切支丹之被給、有者、川跡、

一 酒中在之件、
一 右切支丹之被給、有者、川跡、
一 右切支丹之被給、有者、川跡、
一 右切支丹之被給、有者、川跡、

之

明和元甲申子九月二日

宗對馬即新

稻垣忠房

一紙

宋志摩房

宋志摩房

一紙

稻垣忠房

甲申十月廿八日

「薩列重胡新岡口遷流子少掛山葉内
た色少事少在恐前黄様年一岡陽少信
少信少在信及在」廣葉持来少決決信
小源少在合信公

他方一版様年一薩列重胡新岡口遷流子少掛山葉内
少信少在合信公

「河上房少信少在」持来少決決信
少信少在合信公

杉平薩摩守願分種子為之者武振之令
武振之五帆一艘八月之朔親同其高遠
之内非孫島と申す深之重人た之孫
波國和能言其重家来者方申數
武者人中右深人字未是必味之文
不の能安手之辰申數對列日西之申
杉平是余後子孫之重之重
河公重之重之重之重之重之重
使去之辰之重之重之重之重之重

先付版御書

九

大正書

印

中
軍書

杉平薩摩守願分種子為之者武振之令
武振之五帆一艘八月之朔親同其高遠
之内非孫島と申す深之重人た之孫
波國和能言其重家来者方申數
武者人中右深人字未是必味之文
不の能安手之辰申數對列日西之申
杉平是余後子孫之重之重之重之重之重
河公重之重之重之重之重之重
使去之辰之重之重之重之重之重

當其復使中向之既能若取中官崔
之深私書之先一併於陳氏之家身
進之亦可云 符身主也入公儀之
丁以之入也 其何之以上

十二月

沂石

明初元甲申年十二月

在法沙年書法沙用者杜年用防者
南書者似級古川廣古為持系法沙以
首者少矣又法沙法沙

但世書分首者少矣人馬怪類書之有書入
以法沙絕文有之有書法沙有法沙法沙
肥系玉之內順分甚難書及兩郡
換色之元

一田島四千畝拾七石六斗

口田方四千之倍八石武斗六升余
同昌方三百四拾九石三斗三升余
古寺南秋大坂洪水主祭東之極色法
尤人馬懷我之唐所度山上

十二月 日 法石

明和二年酉年正月十八日

去年十月十日寺重之修之山麓列寺相好、深光
十二月十八日對府之重之寺山更方日也傳八
云行方之寺、寺在法山寺、寺在重光
山前寺之山、寺在重光寺之山、寺在重光寺之山
古川原之山、寺在重光寺之山、寺在重光寺之山
寺前人之寺、寺在重光寺之山、寺在重光寺之山
寺前人之寺、寺在重光寺之山、寺在重光寺之山

御書翰一箱

源人少書宗首在年并物之書身一色

日送水字色之字一色

御好少水色物目錄字一色

但一箱之令之日更之規以多之九之為之日之書

方之之令之日更之規以多之九之為之日之書

御書翰一箱

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

緬惟秋深

啓居冲迪瞻湖靡已卽接東萊府使馳報則本年八月初三日

貴國船一隻漂至於慶尚道巨濟外洋非珍島爲各浦邊將轉次領護本月

十三日移泊于牛巖使古官詳細問情漂人二十一名原係薩摩州種子島

民承本州太守之令今年四月前往琉球國那霸川地載持白米三千八百俵

小麥十二俵黑糖五千七百十二斤分入五十四桶牛皮四十九張草席八十卷等

物七月二十一日與他船五隻同發直向本州鹿兒島阻風浮留洋中者凡
十二日而二十九日遭風濤大作舵折幾至覆沒故斫倒帆檣漂蕩大洋他
船五隻不知去處所載米三千八百俵內過半投水餘存為一千五百俵黑
糖五十四桶內餘存三桶小麥牛皮等物盡數投水逃生云云取考其所持
文引其為薩摩州人無疑茲將各人等另加接恤資給衣糧亦令補緝
船具俾即回還統希

日 崇亮不備

禮曹參議閔

百興

泚書官 官上 口書

朝鮮國度尚道之內毗連島口漂着之薩列
種子等之漂人口相副奉取從禮曹參議之
書心簡

物... 月... 日... 無... 難... 將... 各... 人... 等... 均... 獲... 亦... 人... 補... 海...

... 國... 是... 亦... 作... 新... 後... 三... 便... 安... 所... 創... 凡... 捕... 獲... 物... 人... 等...

... 船... 其... 得... 印... 而... 後... 統... 布...

... 船... 其... 得... 印... 而... 後... 統... 布... 船... 其... 得... 印... 而... 後... 統... 布...

北... 船... 其... 得... 印... 而... 後... 統... 布...

船其得印而後統布

船其得印而後統布

百興

五必口上賞

我之儀... 薩摩... 分... 種... 子... 鴻... 皇... 女... 一... 在... 航...

... 皇... 女... 一... 在... 航... 皇... 女... 一... 在... 航...

... 皇... 女... 一... 在... 航... 皇... 女... 一... 在... 航...

... 皇... 女... 一... 在... 航... 皇... 女... 一... 在... 航...

... 皇... 女... 一... 在... 航... 皇... 女... 一... 在... 航...

... 皇... 女... 一... 在... 航... 皇... 女... 一... 在... 航...

... 皇... 女... 一... 在... 航... 皇... 女... 一... 在... 航...

一 此山心無定處而子牙遂逐所無之山或云此山
乃後七版進之山下此山全無在種之山

一 此山牛家廟上之山乃此山乃此山乃此山

一 此山江口寺後山係山乃此山乃此山乃此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

一 此山此山此山此山此山此山此山此山此山

此之為者即... 送所... 為... 此...

宗者... 亦... 存... 在... 了... 久

法華宗 年軍年 生薩列 重以 印...

回宗 年六十六宗 生回... 雙 珠...

回宗 年軍年 生回... 年軍年 之...

回宗 年軍年 生回... 拾七

一 回宗 年軍年 生回... 拾六

一 回宗 年軍年 生回... 拾七

一 回宗 年軍年 生回... 源...

一 回宗 年軍年 生回... 仲...

一 回宗 年軍年 生回... 長...

一 回宗 年軍年 生回... 姜八

一 回宗 年軍年 生回... 拾七

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

一 日系

年字一系
生口一系

口

六八

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

一 日系

年字一系
生口一系

口

部一系

横行也

一 弟字八百後 日少也 昔後預 洋中 之 列 尸 八

一 少 友 推 或 依

一 尾身種五音推取

洋中台制人
恒之延の制人

一 牛皮字推取法

一 楚八推取

古く五音推取

十二月十八日

水更中
重氏部局

古村十島係

日中十島係

船中及及人係

古く五音推取

古く五音推取

古く五音推取

古く五音推取

送所

古く五音推取

古く五音推取

古く五音推取

古く五音推取

古く五音推取

去後方之... 年... 月... 日... 申

去後方之... 申

去後方之... 申

去後方之... 申

申
二月

申

伊谷重親方下

仲田親方下

多城親方下

比田市方下

小浜津親方

筆重津親方

去後方之... 申

申

高年親方下

淺城親方下

赤尾年親方下

法心
清原

送州

弟方親方

弟方親方
申六丁酉

申六丁酉

申六丁酉

申六丁酉

申六丁酉

申六丁酉

申六丁酉

申六丁酉

仲田親方
申六丁酉

比田市親方

小沼親方

比田市親方

比田市親方

申六丁酉

比田市親方

比田市親方

古月平秋方平

法心
中法心

送心

此後之流 既程亦修

其後之人心多入平與之方心 却息

之後自入之平與平年一月七後亦也方心

其後之人心多入平與之方心

之後自入之平與平年一月七後亦也方心

其後之人心多入平與之方心

其後之人心多入平與之方心

其後之人心多入平與之方心

中平也

伊平之秋方平

仲口秋方平

多城秋方平

比日希方友

小法秋方

五中傳記

右ノ巻ニテハ...

中ノ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

支城親方下

比甲中身友

小比博親方

中比博親方

比博親方

中比博親方

比博親方下

比博親方下

比博親方下

比博親方

甲申八月初三日夕時初八日朝時至薩摩州潭民二十一名

61

五日入給粮饌算字

白米壹石陸斗

耳醬壹斗伍合

鹽菜升參合伍夕

大口魚拾參尾壹條

小乾魚壹百伍尾

白藿伍拾伍兩玖分

真油貳升伍合

菁根拾貳丹

葱根伍拾丹

茄芫參百筒

生魚壹肆拾尾

胡朴肆拾塊

正木唐高椒伍合

白米甲申八月初六日

際

訓導崔知事

別差崔僉正

館司 尊公

白藿伍拾伍兩玖分陸分

真油貳升伍合

菁根拾貳丹

麝香伍兩

檀香伍兩

乳香肆兩

甲申十一月十一日薩摩州漂流民饋宴時別贈給

正木貳拾壹疋

白米拾肆石

際

訓導崔知事

別差崔僉正

館司 尊公

大口魚貳尾

鴨子貳首

紅柿貳拾箇

鷄卵貳拾箇

際

甲申十月二十六日

訓導崔知事

右品同

自甲申八月初八日夕時十二日朝至合五日下

右品同

自甲申八月十二日夕時十六日朝時至合五日下

右品同

自甲申八月十六日夕時二十日朝至合五日下

右品同

自甲申八月二十日夕時二十四日朝至合五日下

右品同

自甲申八月二十四日夕時二十八日朝至合五日下

右品同

自甲申八月二十八日夕時九月初二日朝至合五日下

右品同

自甲申九月初二日夕時初六日朝至合五日下

右品同

自甲申九月初六日夕時初十日朝至合五日下

右品同

自甲申九月十四日夕時十八日朝至合五日下

右品同

自甲申九月十八日夕時二十二日朝至合五日下

右品同

自甲申九月二十二日夕時二十六日朝至合五日下

自甲申八月二十日夕時二十四日朝至合五日下

右品同

自甲申八月二十四日夕時二十八日朝至合五日下

右品同

自甲申八月二十八日夕時九月初二日朝至合五日下

自甲申九月初二日夕時初六日朝至合五日下

自甲申九月初六日夕時初十日朝至合五日下

右品同

自甲申九月初十日夕時十四日朝至合五日下

右品同

自甲申九月十四日夕時十八日朝至合五日下

右品同

自甲申九月十八日夕時二十二日朝至合五日下

右品同

自甲申九月二十二日夕時二十六日朝至合五日下

右品同

自甲申九月二十亥至十月初一日朝至合五日下

右品同

自甲申十月初一日夕時初五日朝至合五日下

右品同

自甲申十月初五日夕時初九日朝至合五日下

右品同

自甲申十月十三夕時十七日朝至合五日下
自甲申十月初九日夕時十三日朝至合五日下

右品同

自甲申十月十七日夕時二十一日朝至合五日下

右品同

自甲申十月二十一日夕時二十五日朝至合五日下

右品同

自甲申十月二十五日夕時二十九日朝至合五日下

自甲申十月十八日夕時二十一日朝至合五日下

右品同

自甲申九月二十六日夕時三十日朝至合五日下

自甲申十月十一日夕時十四日朝至合五日下

自甲申十月初一日夕時初五日朝至合五日下

右品同

自甲申十月十五日夕時十八日朝至合五日下

右品同

自甲申十月廿一日夕時廿四日朝至合五日下

自甲申十月十三日夕時十七日朝至合五日下

右品同

自甲申十月十七日夕時二十一日朝至合五日下

右品同

自甲申十月二十一日夕時二十五日朝至合五日下

右品同

自甲申十月二十五日夕時二十九日朝至合五日下

自甲申十月二十日夕時二十八日陣至合五日下

右品同

自甲申二十九日夕時十一月初四日朝至合五日下

右品同

自甲申十一月初四日夕時初八日朝至合五日下

右品同

自甲申十一月初八日夕時十二日朝至合五日下

右品同

自甲申十一月十六日夕時二十日朝至合五日下

右品同

自甲申十一月二十四日夕時二十六日朝至合二日下

自甲申十月二十日夕時二十八日障至合五日下

右品同

自甲申二十九日夕時十一月初四日朝至合五日下

右品同

自甲申十一月初四日夕時初八日朝至合五日下
自甲申十一月十六日夕時二十日障至合五日下

右品同

自甲申十一月初八日夕時十二日朝至合五日下

右品同

自甲申十一月二十日夕時二十四日朝至合五日下

右品同

自甲申十一月二十四日夕時二十六日朝至合二日下

右品同

自甲申二十九日夕時上月初四日朝至今五日下

右品同

自甲申十二日二十四日夕時二十六日陳至今二十

自甲申十二日二十四日夕時二十六日陳至今二十

自甲申十二日二十四日夕時二十六日陳至今二十

右品同

。 右品同
自甲申十二日二十四日夕時二十六日陳至今二十

酒七

批大校 右品同

右品同

方

得辭交日

右品同

七十八日た

朱吉の通

江戸市中の通

けしき

かた

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

江戸の通

書可
下

如也之存矣素德也一其質約德氣子修之
未收其之如子之質厚十一之德也如也德也
氣之之通也平身也氣之平也也也也也也
此中為形之氣也中中中中中中中中中中
方之氣之通也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也

列也之存矣素德也一其質約德氣子修之
未收其之如子之質厚十一之德也如也德也
氣之之通也平身也氣之平也也也也也也
此中為形之氣也中中中中中中中中中中
方之氣之通也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也

西十月三日

来汝来——沙恭親時節 沙河之沙
金州有沙恭使者中 京與之在
中波至今日 沙河每有物收之
河七在
河通尾之南 沙河別 故有德沙用
黃平
不迎將 沙河 西沙河 九沙河 魚
河部 伊豫 沙河
沙河 西用 人 故 舍 名 德 波 在
沙河 西 沙河 西 沙河 西 沙河 西
沙河 西 沙河 西 沙河 西 沙河 西

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

沙道承沙者其常(後)也(此)也(此)也(此)

此列紙書有沙道承其常(後)也(此)也(此)也(此)

若君樣彩 冲使生朝辭國(此)也(此)也(此)

信使(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

乃波(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

了取(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

胡辭(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

作(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

此(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

乙(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

沙(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

之(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

之(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

係(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

沙(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

掛(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

子(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

來(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

非(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

對(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

得(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)也(此)

子少無事

古切支丹之教族之志多之引の親家

正徳九年

一 院中とてありて中へ志ありてありてありて

或る事ありてありてありてありてありてありて

於方々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

望

明和二年九月廿五日

宗景書

御官判
御判

福垣七好書後

一

正木志摩書後

西本志摩書後

福垣七好書後

一

正徳九年 御判

子少無事 正徳九年

子少無事

物志之云云也判紙之爲此其及之也

以事入心之

九月五日

而先

るすの

書書系列 續平田東之

今上之席 國返籍而來

右原司 貴打手

能波之海

玄山如系

津返籍入作代

相辭通用中

禮書

但報部の入り及人爲の新に切封

本國對馬州太守拾遺平

義暢

奉書

〇

朝鮮國禮曹參判大人 閣下

孟夏漸熱欽惟

貴國寧謐

本邦同揆曷勝遙忭不佞辱奉交一

鄰之職故遵舊典乞新印而要為往復之明驗也切冀鑄造以副所

望仍差正官平蕃長都船主藤直清

封進押物官等聊具輜品式表鄙忱

鑒頌為榮統惟

宗諒肅此不備

明和二年乙酉四月 日

對馬州太守拾遺平

義暢

別幅

彩畫挂硯壹箇

彩畫有趺大圓盆拾枚

赤銅木糴火爐叁箇

貼金小屏風壹雙

大和真朱貳斤

粹鑽中茗碗貳拾箇

赤銅茗爐叁箇

彩畫八寸匾鏡貳面

水晶筮緒伍結

計

明和二年乙酉四月 日

對馬州太守拾遺平

義暢

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公閣下

槎便遠屆

華絨隨至承此問

啓居清迪欣慰交至新改印章一遵前例

惠及珍貺良荷

厚意茲將別幅庸申回敬

肅此不備

乙酉年六月 日

禮曹參判趙

暎

別幅

人參貳劔

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

白綿細拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席參張

四張付油范參部

黄毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

乙酉六月日

禮曹參判趙

暉

乙酉六月十七日

昨日林大監政務の事申出さるる事
 度名義の事申出さるる事
 大監政務の事申出さるる事
 長作の事申出さるる事
 今日た道右回人申出さるる事
 筆の事申出さるる事
 申出さるる事

和為中廢古編

先

胡辭通用平格之儀中七律自定
禮曹自定到返籍之內

新政印章

一 導前例

右通用之平格之儀及對馬中廢胡辭
通用之平格之儀及對馬中廢胡辭

作方之禮曹返籍之相見作吏

唯今之平格之儀及對馬中廢胡辭

子細之相見作吏之先為之

事之平格之儀及對馬中廢胡辭

只今之平格之儀及對馬中廢胡辭

中文字之利用作吏之先為之

右之紙用務之及相見作吏之先為之

和為中廢古編

予

林大

評

對馬守胡群通用之平章年表
作儀何初之子細作武先係
之儀作之之儀中上作付句編
只今一之平章年表此表及相表作
平章年表何平章文字相用如
之之儀作之儀作對馬之儀

家督之 作付作之之儀及每冬
判使及後通用之平章年表
中儀之儀作處南對馬之家督
之儀作初之信使詔用之使表
之儀作車之儀作初之儀作是之
先平相用右作之儀作初之儀
之儀作初之儀作初之儀作初之儀
一代之實名之相用表之儀作

二

宗一
宗一
宗一

明初二百十二月三

虎之涉死書在越涉用書
西面者居能及之涉七石
多石之石也

紀茶之門頗合基肆
換元之只人

換元之只人

一田島七千五百武指七石
內田方六千四百四指七石
武斗二千并余

同島方千八百指七石
武斗二千并余

古方當麥心年去風
反法水虫入等

十月十八日

宗對馬守

日付

明和二年十月廿五日

在江沙中書之通沙月昔可於江隈守領江
少多者若古川廣島坊系少少次之若若如
之江沙中書

南七月十日對馬至大風雨舟船色之完

一田島六千六百石三年六斗六升

一田島方百九石六斗九升

一田島方百九石九斗六升六升

一清家署官位之形

一或百七拾或形

人家

一或形

制孔場

一或形

幸貞書

一或形

幸店

一或形

雜象

一或形

厥

一或馬吉文

右外門家古不古雅手之破損古在
乘書裁之法古不人民怪候古在

此の書は... 沙波... 名極

成りし書

此の書... 西... 新元...

古門... 此の書...

心

此の書... 此の書...

古門...

心

隱居或部... 中... 之...

...

戊七月廿五日

大... 延... 亦...

若若若...

伏...

小... 亦...

...

小林...

...

...

有... 欠...

海標之國... 一筆波皆上取

... 此乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

... 乃... 海標...

新張店居昔時之舊城之舊
之山向之山向之山向之山向

月日

印石

新張店居昔時之舊城之舊
之山向之山向之山向之山向

西成十月十日

92

破書之新長如家經之胡解
去之楫亦其流石之海向
漢書亦佛席也如之流石
之之漢書亦佛席也如之流石
破書胡解之之使者之之流石
之之使者之之流石之之流石
之之流石之之流石之之流石

修牙助有者之者之者物之成
之修之者之者之者之者之者
之修之者之者之者之者之者
若天標 沙龍子丸屬海之

馬成十月に日

森指杯西園寺在乃之離縁お成
たし之布書今り前者杯在邊お成
之入子杯在乃之杯在乃之杯在乃之
之入者之杯在乃之杯在乃之杯在乃之
之入者之杯在乃之杯在乃之杯在乃之
之入者之杯在乃之杯在乃之杯在乃之
之入者之杯在乃之杯在乃之杯在乃之
之入者之杯在乃之杯在乃之杯在乃之
之入者之杯在乃之杯在乃之杯在乃之
之入者之杯在乃之杯在乃之杯在乃之

右邊... 左邊... 又... 七...

此... 係... 係... 係...

宗... 宗... 宗...

此... 係... 係... 係...

宗... 宗... 宗...

右... 左... 右... 左... 右... 左...

分

亦

西... 宗... 宗...

分

右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...

成化年... 卷之...

...

...

...

...

丙戌十月廿五日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

下、此之氣又波金儀作事不審成者法
 少理作非同陸武部在捕家來者少之
 古改作事又疑受者云少症作事
 一古切支丹之類強者常之行跡能受
 候云之症作事
 一開中一立之家中一者少之云其因陸
 或部之捕家來下之云之若其以後不
 審成者故之云之(事)下(事)作事
 以上

明和三年戌年九月十日

宗對馬

福垣如好字後 辰
 宗本志摩字後 辰
 宗本志摩字後 辰
 福垣如好字後 辰

丙戌七月十日

沙東府内新上人參成古之色少同書文
 若其身介好法用者杜年同路學候。宗本志

三月廿七日抄集少目人口有者為之
以又之抄入此等之書也
一一筆一子中

加辨之要易之次身之兼之中之每之
後之身年之少之氣之氣成之於人參之
後之體之同根之氣也均根之氣在陰使
事能之良後之氣味波之詳也
正月晦日
此等之書
公卿之書也
此等之書也

九月廿九日抄集少目人口有者為之
破如仕一被之抄之知古之知古之人參
禮後之抄之知古之知古之知古之知古
河之古抄之知古之知古之知古之知古
後之抄之知古之知古之知古之知古
抄之抄之知古之知古之知古之知古
口之抄之知古之知古之知古之知古
抄之抄之知古之知古之知古之知古
抄之抄之知古之知古之知古之知古

十二月廿七日抄
每百字

神清... 宗對馬島... 大智門大納言...
此等... 宗對馬島... 大智門大納言...
七... 宗對馬島... 大智門大納言...

右條從中親任沙

十二

宗一... 杉本...

成...

... 宗一... 杉本...

成...

... 宗一... 杉本...

修身
百先
三無

初妹大狀
坊西
口

十二月十八日

訂者

四和記丁亥年

正月十日

大細言原冲
初洋中
上門對
若君

丁亥二月廿九日

冒書札有通信者其書札之類書
之類書札有通信者其書札之類書
冒書札有通信者其書札之類書
冒書札有通信者其書札之類書
冒書札有通信者其書札之類書
冒書札有通信者其書札之類書
冒書札有通信者其書札之類書
冒書札有通信者其書札之類書
冒書札有通信者其書札之類書
冒書札有通信者其書札之類書

明和四丁亥子

二月十九日

卯若漢

卯若漢
卯若漢
卯若漢
卯若漢
卯若漢
卯若漢
卯若漢
卯若漢
卯若漢
卯若漢

丁亥二月廿六日

たに心の中事書す通心用交松年有送心書
心の中事書す通心用交松年有送心書
柳云云云

同姓或部去捕伯舟難皮中紀云云
三歳去已十有月大之官新每三行平集
由美年中と美か仁婚礼及送心書
惟美心書す通心用交松年有送心書

二月

市名

和妹大物心大納言縁紙及紙口備
亦七日新通紙心身身高事年上京
為仁婚礼及送心書及送心書
惟美心書す通心用交松年有送心書

二月

市名

右料紙心身事書す切心書及送心書
市名心書

丁亥三月十日

右心身事書す通心用交松年有送心書

以回其志与衡士为书来以反作上卦合
之也

私徽以月由之也其成也如眼清礼美
中亦有古之平结也又谓曰年秋结清
遂上结书也结以平结所结清在母人会
亦之根也眼清清中上六之上

三月十三日

沂水

右科纸与手书本初之也思也结纸之也也
沂水手书

三月十三日

为事与沂水结清中上六之上
沂水手书
少用与古之衡士为书来以反作上
卦合之也今明主也结清中用清中卦
伊结与作上卦结清中用清中卦
古之根也结清中用清中卦
以结清中用清中卦
以结清中用清中卦

水次流彼國入道一車穀不食中
食料之安古長極有難也女白格
水界仕漢國古印常年等乞乞紙成
反續在之乞乞家唐古已年出以代
信使來神一利費難也調信乞乞龍節
P上中表一也家續也子高前子也
信月果加部古事好古一也意同也
信史一也大用紙成和動信乞乞信使
信還海濱乞乞意外一及信面乞乞續

子高前古乞乞女一紙字乞乞每
大納言探物乞乞度紙續使和拍信乞乞
別乞祈後地乞乞又和洋中一及信紙信
乞乞新信信後海對信乞乞信乞
信信乞乞信乞乞意意乞乞再乞乞一子高
信成身不乞乞一用費相乞乞乞乞
東照大君門通乞乞和年乞乞表一和乞乞信
彼國貿易前古乞乞海國一和利乞乞成
近年乞乞信乞乞乞乞乞乞乞乞乞乞

貿易之利亦不淺也後年石價亦一
每畝作米穀入運亦比三五年之數
不知幾何之數國無知之國無在成
物年於後母之知以持以信國有
地以之信信信信信信信信信信
用費之數亦一國之信信信信信
信信信信信信信信信信信信
所度極之信信信信信信信信
一信信信信信信信信信信信

所信信信信信信信信信信信
年信信信信信信信信信信信
所信信信信信信信信信信信
紙信信信信信信信信信信信
所信信信信信信信信信信信
不知信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信
所信信信信信信信信信信信
一信信信信信信信信信信信

庚四月廿一日

左之西原書沙百名船夫、
振舟、沙原、
沙河、
至合、
此等、

社殿、
渡、
程、

同大百小附礼
礼通之坊廣

有之了住寺又病室後送了住
了住師之寺流了了寺之住
寺同寺同和寺同寺同寺同寺
村同寺同寺同寺同寺同寺同
以以寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同

寺同寺同寺同寺同寺同寺同

同大百小附礼

一石

同大百小附礼

丁未二月廿七日

同大百小附礼
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同

同大百小附礼
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同

同大百小附礼
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同
寺同寺同寺同寺同寺同寺同

物作宗又物之道也 似身公下月
由元後回氏武部監捕活積之級也
下相勤也式以監中何何此上
二月廿七日 行

科紙云云云云知云云紙云云書云云人何云云

丁亥六月二日

多列舟船解河之流流之舟中掛之集也
たに運来の舟船も前舟に右留存也
名聞者云云云云 持来云云云云掛石
云云云云云云 持来云云云云新用
如月云云云云大森無也 持来云云云云
持来云云云云

但松浦紀云云云云云云云云云云云云
知云云云云

松浦紀云云云云云云云云云云云云
三人云云云云帆云云艘二月廿七日解河
云云云云云云云云云云云云云云

吾人君子... 後國... 者... 送... 了...

六月二日

右...

出... 右...

右... 通...

丁未六月十日

在... 山... 丁...

明吉台坊上寺 柳靈宗口
濟余詣之長對馬寺禮系之後法脈
沙乳お母の付禮系相勤す中以後
此年中上公以上

六月十日

宗對馬寺内
大漢無宗寺

丁亥六月十九日

方之沙里書大印同生尚井大和程
沙角寺在大漢無宗寺持系山師

方之寺又子朝寺全城成言 法城
方持つ善尚中同寺の法元

明廿日東嶽山 寺靈宗口寺奉詣
之印對馬寺禮系及法脈
而禮お母の付禮系相勤す中以後
此年中上公以上
大漢無宗寺

予の書は可なりと評せしむるに似たりと云ふは固く
其の意を承りて書すべしと云ふは固く
上は通極難に似たりと云ふは固く
字は通極難に似たりと云ふは固く
その意を承りて書すべしと云ふは固く
予の書は可なりと評せしむるに似たりと云ふは固く
其の意を承りて書すべしと云ふは固く
上は通極難に似たりと云ふは固く
字は通極難に似たりと云ふは固く

六月廿一日
新撰の書は固く
その意を承りて書すべしと云ふは固く
書は

伊若

了美六月廿一日

予の書は可なりと評せしむるに似たりと云ふは固く
其の意を承りて書すべしと云ふは固く
上は通極難に似たりと云ふは固く
字は通極難に似たりと云ふは固く
その意を承りて書すべしと云ふは固く
予の書は可なりと評せしむるに似たりと云ふは固く
其の意を承りて書すべしと云ふは固く
上は通極難に似たりと云ふは固く
字は通極難に似たりと云ふは固く

丁亥七月二日
死之日

予向在太森無事... 松坂向人之... 道之... 中... 終... 高... 書...

信合... 幸... 信... 心

六月廿五日

和漢大... 御石

御石

丁亥七月二日

予向在太森無事... 松坂向人之... 道之... 中... 終... 高... 書...

清溪夜渡

私儀雅境遠送正往眩暈少乃如依氏

今以同篇所之依長整之有年

列与送正往系命在勝不中守乃為金

月家正下結之自村田吉店中一修月款

仁後身類心正

丁亥八月
月款
之款

七月

清溪

亥七月廿五日

家門改法處有振、古切又丹款類之、との

君之愛之故也、
此中書は底出書面款類也。

丁亥八月二日

御金沙拜結山類松茶主馬治之爾費

阿部伊豫守御下又、
之類古書山類松茶主馬治之爾費

山類松茶主馬治之爾費

山類松茶主馬治之爾費

山類松茶主馬治之爾費

山類松茶主馬治之爾費

山類松茶主馬治之爾費

勝年向連○國家此辭○至如或通
迫仕のる追○を蒙 仰大恩作
才分の程の如何為作略と申す
以及び用費の申す筋金申勤
不申す計及び申す程を随分作略
若申す代不申す程 仰大恩
仰大恩又他情の儘に申勤申す
一體家同仕備之旨高貴未の程申
此辭を金之の反續結構を 仰大恩

惟身を致以沙塔の程申す入作候
云○申すに國元者又推察の主候と
申すに私身多し初申す者申す
新法の續事一拾外 候約仕候金も
申撰申す程元屋安申す申す申す
申すに旨内候向大○申す編者申す
家同役申す旨及申す及請向度申す
候約申す申す候約申す申す申す
申撰候約申す申す申す申す申す

中愈思真如難之紅合之
信如入用之口之凡積別
信如入用之口之凡積別
信如入用之口之凡積別

八月

宋對馬字

江西判

松年右邊將星殿
松年右邊將星殿
松年右邊將星殿

松年國活字殿
阿部作豫字殿

中別紙字活書

松年國活字殿

洋信字類以全配之

賞

一金字方子友

但此區區... 洋信金事原美子古指之
... 金事原美子古指之
... 金事原美子古指之

合法此子百八指費以自記指會

但年中一之或自同

內八百指之費九百八指會

但對別指成身肥衣國基錄其交每部指對費

運上言勢期詳言

一

殘不足復千此百九指費以自記指會

全子此子子百七支

現年

此百千六百七石

石百七指印之子

字之決

此百千六百七石余

右一海年一不足之分緒向一高何自費

右一海年一不足之分緒向一高何自費

右一海年一不足之分緒向一高何自費

右一海年一不足之分緒向一高何自費

右一海年一不足之分緒向一高何自費

右一海年一不足之分緒向一高何自費

丁亥八月十日

九月十日書法月表河部江德寺候
留名者上漢繁友の持来り月人
の持来り

聖平の書法 八月十日書法月表河部江德寺候
留名者上漢繁友の持来り月人の持来り
の持来り

八月十日

書法

但左例の書法に徳持系と書法月表河部江德寺候

丁亥八月十九日

。每指極法沙眼孔お供出付沙孔新書也先子
古部極更極其法以用表一以部伊豫也
二二二也 但例書亦お供出付一書因以世に
三三三也

八月十九日
沖孔常
上不及作

同姓式部系浦泊舟紐波中約云。縁地
六月甚苦婚姻お愁中。依沙岸刻
以若代法沙孔上。度也頼以上

八月十九日

沖若

丁亥九月十二日

當六月田代洪水をなす。山系同書

此用。爰に松平。右系。今其御。日。沖。高。是
大東。極。其。法。の。持。系。の。孔。に。上。り。居。る。也。

私隙分。服。系。不。玉。基。群。養。父。去。六。月

大雨。の。洪。水。出。人。家。地。下。に。流

床。上。に。入。り。人。亦。家。到。り。拂。上。を。是

田。留。砂。入。り。切。不。難。浦。近。に。掃。成

大。流。水。の。流。れ。に。人。命。半。馬。亦

中書より我々及至に新旨の書紙二枚に義
州府よりきたる書紙抄集無事下りるに
私事毎書分り及以て紙書何れも紙書
大納言様沙汰生もの紙書朝辭同く
手紙後作紙書及書紙の用にてはるるに
沙汰後病余と云ふに滞り所仕を御使
渡海より滞りて此門に如く候し病余由り
候書お如くを押しおきて候し上り向仕
書仕上り候し早速渡海候し及中書書紙仕

第百三十一番様紙にお懸ておまゝ候事書
しるすに書紙お海の中よりおまゝ候事一
情書御添本と渡海より及候しおまゝ
御書書候し及御書紙の用にてはるるに
由り候し及候し及候し及候し及候し
御書紙の用にてはるるに御書紙の用にて
候し及候し及候し及候し及候し及候し
候し及候し及候し及候し及候し及候し
候し及候し及候し及候し及候し及候し
候し及候し及候し及候し及候し及候し
候し及候し及候し及候し及候し及候し

宣九月十日

中書

武部大捕奉旨... 於... 達... 達...

上

明和丁亥乙酉九月廿九日

宗對馬

福垣... 宗志... 福垣... 一紙... 一紙

丁亥十月十日

大東... 宗志... 宗志... 宗志... 宗志...

胡祥渡個... 宗志...

看品銅共個... 宗志...

買入... 宗志...

宗志... 宗志...

十月十日... 宗志...

如何亦勤一

十月十日

大...

例書

前之胡解渡國... 十月十日... 對馬...

十月

丁亥十月十八日

13.

同歷參判使松浦平義... 一筆波路...

同歷參判使松浦平義... 同歷參判使松浦平義... 同歷參判使松浦平義...

為之中心以成其中心一捧愚札以心控流之

國九月十二日

松平右進將監候

松平右京大吏候

松平周防守候

阿部伊豫守候

印返候箱上書

朝鮮國口回慰使在後作付候禮曹參議之返候

印返候津紙面寫

日本國對馬州太守拾遺平

義暢

奉書 133

朝鮮國禮曹大人 閣下

即時遐想

興居住迪景仰罔措茲告本月十九日裁判橋暢任迎護

譯官朝發

貴國船脚難進日既薄暮處遇颶風漂轉分離天向黎明裁判駕船

漂著弊州鹿見浦於是尋覓

譯官駕船不得所在馳急告吾以此變事即馳使者于海國候伯

求其蹤跡二十五日得吾館司急報憑審

貴國漁民極得

譯官一行之中寄命于損折船具漂蕩洋中者也即知駕船敗沒洋中

驚悵曷勝因再報海國侯伯旁求其流屍與凡具之漂寄者未得

其信此變事狀已

啓

東武嗚呼為賀

本邦

儲位誕生遠勞

譯官遇此凶變是以

賀慶太禮延而未成由此觀之不佞不德而掌

隣誼故為此憂豈不恐懼乎矧

貴國朝廷之惻隱死者親戚之哀痛思之念之不安寢食仍馳拮守保

謹此問慰書不盡言委付伴叻總冀

崇諒不備

明和三年丙戌七月 日

對馬州太守拾遺平

義暢

朝鮮國禮曹參議元

義孫

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

樣便遠届

芳緘隨至憑諦

動止清裕慰浣倍品向承

貴國有

弄璋之慶不勝聳忤為遣象官庸伸賀儀不幸中流遭風百餘人命幾盡湮沒

貴州護行六人亦在其中怛然矜慘已不可言而伸賀之禮仍隨以延
此心慙歎亦復如何至於

聘祭之事曲荷

勤念

專介問慰此固出交好之

舊誼亦可見惻怛之

盛心嘉歎之餘傾謝采深

來介款遇式遵舊例統希
崇亮不備

丙戌年十月 日

禮曹參議元

義孫

丁亥十月廿七日

先達回國掛印乘舟以行之至臺州
於途浦船之人家多被朝鮮國慶商道
之內古多公浦江及漢者作漢人曰亦附
來作印書籍多乃之子也連法亦係
方有通政及文度也留官名大東或稱
以用表阿部印書籍多乃之子也連法亦係
掛印于舟中

但連法亦連法担託在此畧

別氏より下りてきたりて、小島の人を、
のりて、おのりて、おのりて、おのりて、
少くも、おのりて、おのりて、おのりて、
鷺入、おのりて、おのりて、おのりて、
浦入、おのりて、おのりて、おのりて、
那日、おのりて、おのりて、おのりて、
牛島、おのりて、おのりて、おのりて、
出帆、おのりて、おのりて、おのりて、

在りて、おのりて、おのりて、おのりて、
浦入、おのりて、おのりて、おのりて、
那日、おのりて、おのりて、おのりて、

一 氏員、おのりて、おのりて、おのりて、
浦入、おのりて、おのりて、おのりて、

一 浦入、おのりて、おのりて、おのりて、
那日、おのりて、おのりて、おのりて、

一 那日、おのりて、おのりて、おのりて、
浦入、おのりて、おのりて、おのりて、

唯此書のりり公の義を以てしん

一 秋の國久しくは時節のあはれん

外ありしん 皇國宗有年時、結成るる月

よ長に書載は

一 律宗 美善道 年宗成 又名書

一 同宗 同以 年宗成 又名書

一 同宗 同以 年二十歳 福地

少道少道人

八月廿四日

水文中
又名

大行書
中
無

高物志 数多しん 眞云
はま方しん 見可交し
雨野しん 守書句
中史 亦取居し

切心家

切心家 傍に 文宗 宗徳 寺 別紙
徳少 見可交 法 城子 下 色 加
中 守 書 句 亦 取 居 上 住 凡

九拾日

宣統元年... 水手... 山通...

明和二年二月十日

福村...

祈... 山...

右... 漢人...

朝鮮國禮曹參議李

惟秀

奉書

日本國對馬州太守拾遺平公

緬惟仲夏

啓居冲迪瞻湖靡已即接東萊府使馳報則本年三月

二十四日

貴國船一隻漂至慶尚道古多大浦外洋轉到多大浦浦口

四月二十一日移泊于牛巖使官詳細問情漂人三名原係

貴國壹波州蘆邊邊浦居民載持白米二十六石陶器五束等
物本州太守路文商敗次去月二十三日自本土發向馬州之
際東南風大作鵞板缺傷帆索斷絕船械漂失不能制船
漂蕩大洋出沒死生之餘來泊此處云云所持文引漂蕩
時為風浪所沾濕字畫漫漶雖不可考見再三問情果是
壹波州人無疑茲將各人等另加接恤資給衣糧俾即回還
統希

崇亮不備

丁亥年五月 日

禮曹參議李

惟秀

右書籍箱口掛
 朔辭國度尚道之內古多夫浦
 若之壹別其為浦之深人白お別
 從程由同久少議之書籍

古多夫浦之深
 單張子

一料米叁斗

一古魚壹尾柒條

一乾魚拾伍尾

一真油叁合

一甘醬壹升伍合

一白蛤鹽壹升伍里

此貝塚子...
 其多如...
 以...
 以上

一鹽壹升伍里

一甘藷柒兩玖分伍里

以後諸標人等如有違犯者以二十八日至五日之分
定其罪狀如有違犯者以二十八日至五日之分
以在東京府及初名中至孫家
入浦五日監官鄭

禁徒 會公

一糯米太平

一對五百大斗

一即新國新國新國新國

一乾魚拾伍尾

一真油叁合

一甘醬壹升伍合

一白蛤鹽壹升伍里

一鹽壹升伍里

一甘藷柒兩玖錢玖分伍里

右者漂人三名自三月二十四日以至二十八日之分

丁亥三月二十八日右道古多大浦五日監官鄭

禁徒 僉公

一糯米叁斗

一料伍石叁斗

小即係國文竹卷四家

一乾魚拾伍尾

一真油叁合

一甘醬壹升伍合

一白蛤鹽壹升伍里

Handwritten notes on a slip of paper at the top of the right page, including characters like '水' and '竹'.

一盞壹升伍里

一甘藷柒兩玖分玖厘

以後之方以初十日為始以二十八日至五日之分
要之十日之內以十日之內為合
口在東京及初十日之內至五日之內
八浦五日監官鄭

本朝鮮國地之物同線家

五日式

146

一料米叁斗

一大口魚壹尾柒條

一乾魚拾伍尾

一真油叁合

一甘醬壹升伍合

一白蛤鹽壹升伍里

一盞壹升五呈

一甘藷柒兩玖支玖分伍厘

右者漂人三名自三月二十九日以四月初四日至五日之分

丁亥四月初四日東萊五音禮房徐

禁徒

僉公

右者通漂人胡祥團等商中六日同
三人中一人名胡祥團

一白米貳石

一白木叁匹

右者壹岐州漂民處自東萊例給條

丁亥閏七月十五日該監柳同知

右者東萊府使官名

一乾大口魚貳尾

一紅柿貳拾箇

一餅壹兜

一酒壹瓶

際

丁亥閏七月

日訓導守崔僉知

別差崔判官

右支正官右支正官

右色六字右色六字市川志字市川志字無右書無右書未
第字無之第字無之色書色書續下續下成成仕仕之之

一瑞軒右判官

一神入口

右相少中書右相少中書聖派聖派字同派字同派之上色上書

右朝鮮國地志右朝鮮國地志為目錄字

右支通右支通之上色上書之上色上書

漂人口上書漂人口上書蘇淫來切蘇淫來切字通

右朝鮮國地志右朝鮮國地志為目錄字為目錄字

丁亥十一月廿二日

松平溪波松平溪波

宗對島宗對島

右家右家從從身身於於心心

十一月廿二日

松平侯波書九次

松平之馬

宗對馬書九次

古那源書

右大書書切邊之上包頭濃紙之上書西丸

松平侯波書九次

松平之馬

宗對馬書九次

古那源書

海江抄書

丁亥十二月十二日

在江沙中書一通用者松平國編得
寺通書名大書松平書馬持系山九次
作之書又山修之書成書書馬持

肥前之内願合基難養父兩郡
損毛之書

一田島七千五百之拾八石六斗六升餘

内田方七千六百石五升餘

同田方九百之拾石六升餘

右者浦及北來大雨洪水未損毛任以上

到来不仕候時節是に仕候
此後御座申上仕候上

十二月十日

宗對馬守
此後御座申上

十二月十日

たゞ伺書申用書相平月給と候旨申書者
此後御座申上仕候上
の如きの事申上仕候上

對馬守御座申上仕候上
此後御座申上仕候上

十二月十日

十二月十日

宗對馬守

此後御座申上

對馬守御座申上仕候上
此後御座申上仕候上

十二月十日

宗對馬守

一、此後御座申上仕候上
此後御座申上仕候上

一 松平の御殿原に酒井雅楽の御殿あり
此御殿の内に姓御殿あり此御殿の御殿
と云ふ御殿あり此御殿の御殿あり此御殿
の御殿あり此御殿の御殿あり

坐

家督馬印

十二月廿四日

二 徳七郎

右の事はおのちの御殿の御殿あり

